平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	教育相談 (Educational Counseling)			授業コード	K001501
担当教員名	高橋　淳一郎			科目ナンバリングコード	E20108
配当学年	3	開講期	前期		
必修・選択区分	教職関係科目(必修)	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	教職を目指す学生は必ず受講してください。				
受講心得	遅刻、講義中の携帯電話の使用、おしゃべり、無断外室など、他の学生に迷惑のかかる行為は禁止です。大学生として最低限のマナーは守って履修してください。				
教科書	実践につながる教育相談　黒田祐二(編著)　北樹出版				
参考文献及び指定図書	教育相談ワークブック―子どもを育む人になるために―　桜井美加　他　北樹出版				
関連科目	生徒指導、特別活動の研究 、その他教職課程科目				

授業の目的	教職科目の必修課程である。現代の教育現場において、教師は、単に授業をすればよいわけではなく、不登校、いじめ、非行など、さまざまな心理的問題や行動上の問題を抱えた児童・生徒と出会い、子どもを理解し、支援していかねばならない。これら、教師として教育相談を行うことのできる能力を育むことを主たる目標とする。□
授業の概要	中学・高校の現場で遭遇する種々の問題に対処するために、カウンセリングの基礎的な知識を含む基本的・実践的な考え方や態度・技法を身に着ける。具体的な事例について教育臨床的な視点から問題を理解し、対応の在り方について具体的に論じる。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： オリエンテーション・現代社会における教育相談の意義 学校教育のなかでの教育相談の位置づけや教育相談の目的、校内体制の整備など、現代の学校教育と教育相談の関係性を概観する。	テキストp12-17の予習60分 リアクションペーパーの提出 講義内容の復習30分
第 2 週 ： 子どもの発達の特徴と不適応 高校生くらいまでの、いわゆる「こども」の発達についてエリクソンの発達理論を軸にしながら段階を追って説明し、その中で発達段階ごとの不適応やつまづきについて具体例を挙げて考えていく。	テキストp18-24の予習60分 リアクションペーパーの提出 講義内容の復習30分
第 3 週 ： 中学・高校生に起こりやすい発達上の諸問題 ストレスとこころの不健康について論じ、特に中学生や高校生に起こりやすいとされるいくつかの精神障害について概説する。また、その対応についても具体例を挙げて考えていく。	テキストp30-41の予習60分 リアクションペーパーの提出 講義内容の復習30分
第 4 週 ： 不登校の子どもの理解とかかわり 不登校の背景や支援のあり方について、具体的なケースを挙げて実践的に理解していく。	テキストp54-66の予習60分 リアクションペーパーの提出 講義内容の復習30分
第 5 週 ： 発達障害の理解とかかわり	

学校現場でよく見られる発達障害について概説し、それらの生徒への支援のあり方について具体的なケースを挙げて実践的に理解していく。	テキストp42-53の予習60分 リアクションペーパーの提出 講義内容の復習30分
第 6 週 ： いじめへの対応 いじめの定義といじめへの対応について具体的なケースを挙げて実践的に理解していく。また、いじめを予防するための学級・学校作りについても考えていく。	テキストp67-82の予習60分 リアクションペーパーの提出 講義内容の復習30分
第 7 週 ： 暴力行為の理解とかかわり 暴力行為の背景とその対応について、具体的なケースを挙げて実践的に理解していく。	テキストp83-95の予習60分 リアクションペーパーの提出講義内容の復習30分
第 8 週 ： 保護者および家庭への支援と連携のあり方 これまで学んだ精神障害・不登校・発達障害・いじめ・暴力行為などの場面で、家庭とどのように連携し、家庭をどのように支援していくのか、具体的なケースを挙げて実践的に理解していく。	テキストp52,63-66,90,146-150の予習60分 リアクションペーパーの提出 講義内容の復習30分
第 9 週 ： アセスメントの方法①（理論および効用と限界について） 学校現場ではどのように子どもたちの状態をアセスメントするか、その方法における理論を概説する。また、アセスメントによってできること、できないことを理解する。	テキストp96-104の予習60分リアクションペーパーの提出 講義内容の復習30分
第10週： アセスメントの方法②（演習） アセスメントのための視点、聞き方など目の前の生徒から得られる情報をどのようにキャッチするのか、具体的なケースを挙げて実践的に理解していく。	テキストp103-107の予習60分 リアクションペーパーの提出 講義内容の復習30分
第11週： カウンセリングの基本的理論 教育相談の基礎となるカウンセリングの理論と、発展的な技法について概説する。	テキストp108-120の予習60分 リアクションペーパーの提出 講義内容の復習30分
第12週： カウンセリングの基本的技法 実際に学校現場でどのようにカウンセリングの技法を活かしていくのか、教師のカウンセリングマインドにも触れながら、特に「聴き方」に焦点を当てて演習も交えながら学んでいく。	テキストp121-132の予習60分 リアクションペーパーの提出 講義内容の復習30分
第13週： カウンセリングにおける予防・開発的援助 すべての生徒を対象としたカウンセリングとしての予防・開発的援助の具体的な技法を演習を交えながら学んでいく。	テキストp133-145の予習60分 リアクションペーパーの提出講義内容の復習30分
第14週： スクールカウンセラーとの連携について 現在、すべての中学校と退学率が高いなどの課題のある高校にはスクールカウンセラーが配置されている。校内の専門家とどのような連携ができるのか、具体的なケースを挙げて実践的に理解していく。	テキストp151-154の予習60分 リアクションペーパーの提出 講義内容の復習30分
第15週： 外部機関との連携について	

スクールカウンセラー以外にも外部の専門機関と連携を取ることによって、よりよい解決につなげることができるケースもある。そのようなケースを具体的に挙げて連携の取り方やチームの作り方などを実践的に学んでいく。	テキスp155-160トの予習60分 リアクションペーパーの提出 講義内容の復習30分
第16週： 期末試験 これまでの内容について論述形式の試験を実施します。自筆ノートおよび講義内に配布したプリントは持ち込み可とし、試験時間は60分です。	

授業の運営方法	（1）授業の形式	「講義形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	①教職を目指す者として教育相談の意義と必要性を理解できる。
【知識・理解】	②中学生・高校生の発達上の諸問題について理解できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	③カウンセリングの基本的技法について理解し、方法を身に着けられる。 ④個別のケース検討に対して積極的に自らの意見を発表できる。
【思考・判断・創造】	⑤スクールカウンセラーを含む外部機関との連携のあり方について理解できる。 ⑥中学生・高校生をめぐる諸問題に対して、未然防止の観点から対応を考えることができる。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	**10点**	**5点**	**5点**	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	**10点**	**5点**	**5点**	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	**20点**	**5点**	**5点**	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	**20点**	**5点**	**5点**	

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	**評価の実施方法と達成水準の目安**

レポート・作品等 （提出物）	毎回の講義の最後にリアクションペーパーを提出してもらいます。その内容について点数化し、評価に加えます。評価方法は以下の通りです。 A　講義の内容をよく理解し、振り返りながら自分の考えをしっかりと述べることができている。 B　講義の内容をよく理解し、振り返ることができている。 C　講義の内容をだいたい理解し、振り返ることができている。 D　講義の内容を一部理解し、振り返ることができている。 なお、記載された内容(質問等)については、必要に応じて次回講義の導入で振り返りを含めて触れていき、その中で質問に回答します。
発表・その他 （無形成果）	出席点を20点満点とし、1回の欠席ごとに2点を減点する方式で評価に取り入れます。 ケース検討の際の発言や態度（積極性）も評価に加えます。